

2. 事業の目的と概要	
(1) 上位目標	リンポポ州ベンベ郡マカド地区において、青少年による地域活動を通じて、農村部の青少年を取り巻く社会環境が改善される。 (※本事業では、11 歳以上 18 歳未満を青少年と呼び、対象とする。)
(2) 事業の必要性(背景)	<p>(ア)南アフリカの経済社会状況</p> <p>南アフリカ共和国(以下、南ア)では 1994 年のアパルトヘイト(人種隔離政策)撤廃後、あらゆる開発から排除されてきた黒人等に対する経済優遇政策がとられてきたが、貧富の格差は広がり続けている。近年は、経済が低迷、政府の汚職も絶えず、失業率も改善されていない。アパルトヘイトの終焉とともに新しい社会がはじまり経済的恩恵を受けることができるという期待を裏切る結果となり、公共サービスの欠如に抗議する「サービス・デリバリー・デモ」や外国人労働者を暴力で排除する「ゼノフォビア」が頻発、暴徒化するなど、社会状況が悪化している。</p> <p>また、90 年代から拡大し始めた HIV/エイズ感染は経済・社会の発展の足かせとなった。現在でも一国内としては世界最多の 640 万人(総人口の約 12%)の感染者を抱えている。2004 年より公的医療機関における ARV(抗レトロウィルス薬)無料支給が開始され HIV 感染＝死ではなくなったが、未だ社会への影響は多大で、特に感染率が高い若年層の将来設計に深刻な影響を与えている。</p> <p>(イ)事業地の経済社会状況</p> <p>社会経済状況悪化の影響を最も受けているのが、民主化後に生まれた若い世代である。特に農村部ではアパルトヘイト終焉後も雇用状況は改善されず、都市部や鉱山などへの出稼ぎが固定化するなか、地域内にロールモデルとなり得る身近な大人がいない。また、出稼ぎで子どもを高齢者に預ける家庭も多く、両親が不在ななか、青少年が家庭内で必要なサポートを受けられない。地域の学校においても財源・人材が常に不足している。こうした状況から、農村部に暮らす青少年にとって、将来に展望を持ち、貧困から脱する術を見出すことは困難であり、社会が悪循環する要因となっている。</p> <p>リンポポ州は、黒人人口の割合が 90%以上で、同国内で貧困州に位置づけられ、同州の若年層(15～34 歳)の実質的な非就業率は 40%を超える。中でも事業地のベンベ郡は、州都・ポロクワネから遠く、保健や教育に係る政策実施が遅れている。こうしたなか、農村部の多くの世帯では政府支給の子ども手当や年金を主な家計の財源としている。</p> <p>申請者の過去の活動経験からは、地域で親がいない等特別なケアが必要な子ども・青少年が通うドロップイン・センター(以下、DIC)が、青少年が安全に過ごし、学ぶことのできる場として地域に根付いており、地域の青少年育成の受け皿、モデルとなる可能性が見えてきた。</p> <p>そこで本事業では、DIC に通う 10 代の若者を対象とした活動を実施し、彼らがケアの対象となるだけでなく、自ら地域の啓発活動や生活改善を担う主体として、地域の若者のモデルとなり、波及効果を与えていける人材となるよう育成する。同時に、これが次の世代につながっていくよう DIC の組織基盤強化とボランティアの育成を行う。</p> <p>なお、本事業は、農村部で暮らす貧しい青少年の育成と社会参加の支援を目指している点において、対南アフリカ共和国国別援助方針にある「社会的弱者の経済・社会参加支援」と結果的に合致している。</p>
(3) 事業内容	<p>以下の 1～3 の成果目標達成のため、(A)～(E)の活動を実施する。事業対象のボドウェ村の人口は約 1800 世帯。</p> <p>1. <u>10 代の青少年が、自らを取り巻く社会環境の改善を目指して活動するための場・基盤が地域内に整備される</u> (DIC を対象とした活動)</p> <p>(A) DIC 活動へのサポート</p> <p>地域内で子どもケアの中心的な役割を担う現地の事業提携団体ボド</p>

ウェ・ドロップイン・センター(ボドウェDIC)の活動を支援する。主には、ボドウェ DIC のボランティアが青少年活動を継続的に支援するための研修と活動モニタリングを行う。また、子ども同士が学業のサポートを行う「スタディ・グループ」運営に関する研修、環境整備も行う。DIC の日常的な活動基盤支援として教材の提供や DIC 家屋の修繕も行う。事業終了後も DIC が持続的に運営されるよう、組織基盤強化としてガバナンス及びプロジェクトマネジメント(資金調達を含む)研修を実施する。

(B) 経験交流(DIC ボランティア対象)

リンポポ州内及び他州で青少年活動に実績のある団体から、DIC ボランティアが継続的に多様な活動の発想をもちながら子どもたちをサポートする方法を学ぶための経験交流を実施する。

2. 青少年が自らを取り巻く社会環境を理解し、変化を生むための行動を開始する (青少年を対象とした活動)

(C) 青少年活動へのサポート

ボドウェ DIC に通う青少年による活動をサポートし、彼らがお互いに協力し学び合う「ピア・サポート」の体制を強化する。予防・啓発における「ピア・エデュケーション」の効果についてはすでに様々なところで報告されており、地域内で HIV/エイズ予防、性教育等について若者同士が教え合い、価値観を共有することで、効果的に意識啓発活動につながることを期待される。また、青少年が年下の子どもたちをサポートする体制をつくり、地域内の子どもたち、青少年世代が DIC 活動に持続的に参加していくための仕組みをつくる。

このために、主にリーダーシップ研修、ワークショップの開催などを行う。また、南ア内で「Life Orientation」とよばれる HIV/エイズ予防、性教育、問題解決能力などについて、青少年自らが地域内で伝えていくための研修を実施する。方法としては、HIV/エイズ予防や子どもの権利などボドウェ DIC のボランティアがすでに持っている知識・情報については、ボランティアによる青少年対象の研修を実施し、それ以外のテーマについては専門家による研修を実施する。研修後に、青少年による地域内、学校での啓発活動を支援する。

(D) 教育者、保護者を対象とした意識啓発

コミュニティの関係者を対象とし、青少年の役割について理解を深めるための意識啓発を実施する。主要な対象者は教育者および保護者とする。地域の教員一部には、若者の成長過程についての理解を深め、体罰を使わない教育方法に関する研修を実施する。保護者には、ボドウェ DIC での保護者会設置を目指し、青少年のサポートにおける保護者の役割に関する研修を実施する。また、ボランティアが日々の家庭訪問などを通して保護者と関係を構築するなかで、彼らの意識啓発を図る。

3. 家庭菜園活動を通して、青少年とその家族の家計が改善される (青少年を対象とした活動)

(E) 青少年世帯を中心とした家庭菜園研修の実施

家庭菜園で基本的な野菜や主食を生産し、現金による購入を減らすことで、家計の負担を軽減することを目指す。

主に申請者が前事業で育成した村内の菜園ファシリテーターにより、青少年対象の菜園研修を実施、青少年で菜園づくりを行える人材を育てる。また、青少年の家族も家庭菜園づくりに参加するよう研修段階から巻き込んでいく。

申請者の過去の活動から、職の機会が限られた農村部において家庭菜園は参加者がエンパワーメントされるだけでなく、自活の術を学び、外部への就労だけに頼らずに生活改善していくためのきっかけとなること

	<p>が分かっている。青少年活動と結び付け、青少年の自活意識・能力の育成に結び付けていく。</p>
(4) 持続発展性	<p>本事業は現地事業提携団体ポドウェ DIC を通して事業を実施する。DIC とは、エイズ遺児を含む困難な状況に置かれた子どもたちの放課後支援を行うコミュニティ活動として、南アの社会開発局が推奨している。元々はエイズ遺児への食事の提供を主な目的としていたが、近年は政府の食費への資金支給が滞ることが多々あるなか、より広範な背景をもつ子どもたちに対応している。同局所属のソーシャルワーカーと協力して、子どもの課題解決にあたっており、コミュニティに欠かせない存在となっている。このように政府の政策にも取り入れられている組織と協働することで持続性を確保する。ポドウェ DIC は 2008 年から活動しており、2012～15 年に申請者と協働で事業を実施、実績を残している。村内のステークホルダーと良好な関係を築いており、事業の成果が同 DIC の活動を通して波及、持続されていくことが期待される。</p> <p>また、本事業では、同 DIC が先行的な経験をもつ団体との経験交流を通じ、事業終了後も必要に応じて相談、サポートが受けられるネットワークを構築することを目指している。一方、周辺村の DIC とはすでに関係があり、ポドウェ DIC に対しては、これらの DIC をサポートしていくよう意識啓発も行っていく。</p> <p>このように、本事業ではいち DIC を通じての活動が地域内で広がりをもつような関係構築を視野に入れていることから、事業終了後の波及効果、発展性が期待される。</p>
5) 期待される成果と成果を測る指標	<p><u>1. 10代の青少年が、自らの社会環境の改善を目指して活動するための場・基盤が地域内に整備される。</u></p> <p>1-A. ポドウェ DIC において、年齢別のニーズに合わせた活動が定期的 に実施されている。</p> <p>1-B. ポドウェ DIC ボランティアが、青少年が行う活動を日常的にサポ ートしている。</p> <p>1-C. ポドウェ DIC において、青少年同士の「ピア・サポート体制」がで きている。</p> <p>1-D. ポドウェ DIC ボランティアが先行経験を持つ他団体に必要に応じて 相談する事例が最低 2 件確認される。</p> <p>【確認方法】ポドウェ DIC 活動記録、申請者活動モニタリング記録、評価時インタビュー (成果、課題、意識・認識・知識の変化等も確認)</p> <p><u>2. 青少年が自らを取り巻く社会環境を理解し、変化を生むための行動を開始している。</u></p> <p>2-A. 青少年が社会環境の課題解決に対する自らの役割を認識してい る。</p> <p>2-B. ポドウェ DIC において、青少年による活動が日常的、継続的に行 われている。</p> <p>2-C. 青少年が彼らの抱える課題に関する啓発活動を地域内で実施し ている。</p> <p>2-D. DIC ポドウェに保護者が設置され、青少年活動への協力や課題 対応事例が最低 2 件確認される。</p> <p>2-E. 学校の教育者、保護者、その他地域内の関係者による、青少年活 動への協力事例が最低 2 件確認される。</p> <p>【確認方法】ポドウェ DIC 活動記録、申請者活動モニタリング記録、評価時インタビュー (成果、課題、意識・認識・知識の変化等も確認)</p> <p><u>3. 青少年が農村部において家庭菜園活動により生計を立てる可能性を見出ししている。</u></p> <p>3-A. 青少年を中心に、DIC に通う子どもの 20 世帯が家族で家庭菜園を 実施している。</p> <p>【確認方法】事業ビフォー・アフター写真撮影、申請者活動モニタリング記録(実践状況お よび収穫物利用状況)、評価時インタビュー・菜園訪問</p>